

第1回臨書展 記念 習作展示会

平成26年11月27日～30日

(午前10時～午後4時半。30日は午後2時まで)

澤乃井ガーデンギャラリー

〒198-0172 東京都青梅市沢井 2-770 お問合せ:小澤酒造(0428-78-8215)



日本寒山寺



風橋夜泊拓本

一般社団法人日本書字文化協会

本部 〒164-0001 東京都中野区中野 2-13-26 第一岡ビル 3階

電話03-6304-8212 / FAX03-6304-8213

Eメール info@syobunkyo.org ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

附属書写書道専修学院本部教室 同上

青梅教室 〒198-0036 青梅市河辺町 10-10-3 サンライズイトウ 301

TEL・FAX 0428-21-6896

(無人の時は本部に転送されます)

同文の国、相互理解の架け橋に

日本書字文化協会代表理事・会長 大平恵理



多摩川上流、東京都青梅市沢井の鵜の瀬溪谷に建つ日本寒山寺を舞台に、臨書展を開催いたします。中国の古典を書写する臨書は、書の学びの基本。同時に、同文の隣国の文化理解を深める好機と期待しております。そのイベントとして、書文協講師や付属書写書道専修学院青梅教室生徒らによる習作展を、秋色濃い鵜の瀬溪谷近辺にて開くことと致しました。

日本寒山寺は中国・蘇州の名刹、寒山寺が明治前期、日本での布教のため当地の篤志家らの協力を得て、蘇州の本山を模して建立しました。無住ですが、漢詩 楓橋夜泊で知られる鐘楼や碑文も蘇州そのままに建てられており、東京の奥座敷にある秘められた日中友好の場でございます。

漢詩 楓橋夜泊は、中唐の詩人、張継が詠み、書としては清代の書家の手になる寒山寺碑文が伝えられています。その拓本を臨書の手本といたしますが、日本の正書である教育漢字で学ぶ小学生のために、私がこの漢詩に含まれる教育漢字10文字を楷書で揮毫し、お手本といたしました。

幸いにも臨書展は、青梅市日本中国友好協会、蘇州寒山寺、書の難関大学・中国国立南京芸術学院と蘇州呉昌碩研究会、日本で活動する中国書法学院の後援をいただき、日本寒山寺を管理している酒造元のご協力も得て開催されます。応募締め切りは平成27年3月末日。優劣よりも参加に第一義を置くコンクールです。お気軽に出品ください。

型の隣には、いつも「心」を

臨書展運営委員長（書文協副会長） 渡邊啓子



書写書道の基本は、まず手本にいかになづくかを学ぶことです。いわゆる「型にはめる」。その後、逆に型を割り、自己表現の世界へと移ります。つまり、「型を出す」。臨書展は、その足がかりとして大変意味があると思います。

大事なものは「自己」です。いかに多くの練習を、様々な経験を積んできたか。失敗や挫折をする中で、どの様に乗り越えてきたか。そうした中から、優しさや思いやり、豊かな人間性が生まれてくるのだと思います。

「書は人なり」「書は体を現す」。その人から滲み出てきたものが感動や共鳴するものを産み出していくのです。それは、優しさ、豊かさ、たくましさ等…心ある愛のかたまりみたいなものでしょうか。

漢詩臨書には、漢詩の心とともに、書く人の心がにじみ出てくると思います。専門語で言われるところの「意臨」です。

型の隣には、いつも「心」を備えて、白い紙に臨みたいものです。

書文協の主な事業

指導法 ・ 教材、教具研究開発と専修学院経営

これらが書文協の中心的事業です。研究、実践の場として写書書道専修学院を持ち、作品を審査し、賞、段級・ライセンスを付与する機関として個人情報管理システムを備え、個人の生涯学習、各団体の生徒情報管理のサポートをしています。

こうした書文協の使命を支えていただくため会員制度をとっています。

書文協の書の学びは各地の先生方による対面学習を基本としていますが、遠隔地や時間に制限のある方のために通信教育の制度を置いています。また書文協は、書を書く技術だけでなく、文字感覚や表現力を重視しており、専修学院に文章表現講座（作文教室）を置き、遠い人のために添削コースも設けています。

検定・ライセンス

検定は硬筆楷書から毛筆草書まで12コースあり、各コースとも120段階の課題の検定試験を受けながら進みます。現在、検定改革が進められており、新・硬筆検定（書写書道硬筆課題検定）が始まります。楷書と行書の検定コースを1本化したもので、毛筆も新・毛筆検定を近年中に始めます。

検定試験の累計点に応じて段級位が定められ、指導者ライセンスが与えられます。ライセンスは、人に指導してかまわないレベルを書文協が公認するもので、子供たちの大きな励みにもなります。

全国大会（大会と個別コンクールは下図の通りです）

全国書写書道総合大会（総合大会） 応募締め切り 9月中旬

- ・全国学生書写書道大会
- ・全国硬筆コンクール
- ・ひらがな・かきかたコンクール

大会趣旨 毛筆と硬筆のバランスある発達を目指す。ひらがな・かきかたコンクールは小学3年以下の大会。

全国書写書道伝統文化大会（伝統文化大会） 応募締め切り 1月中旬

- ・年賀はがきコンクール
- ・全国学生書き初め展覧会

大会趣旨 日本の伝統文化を強調した大規模大会とする

講習会

各地域に書文協本部講師が出向いて実施する講習会と、夏の総合大会、冬の伝統文化大会の規定課題を練習する錬成会があります。各地講習会には、主に検定受験のための練習を目標とするものと、講習会受講でライセンスが取得できる「えんぴつ指導者ライセンス講習会」があります。

ホームページ <http://www.syobunkyo.org> をご参照ください

習作展出品者一覧

書文協講師

氏名	役職(所属)	文言	用紙
大平 恵理	書文協会長	月落烏啼霜滿天	半切
池田 圭子	教学参与	江楓漁火對愁眠	半切
渡邊 啓子	副会長	故蘇城外寒山寺	半切
佐藤 貴子	指導主任	夜半鐘聲到客船	半切

運営委員長

渡邊 啓子	漢詩全文	半切
-------	------	----

幼児～大学・一般

<青梅教室・一般>

大木 啓子 田中かず実 波多野明子 吉永久美子 渡邊 良子

<青梅教室・幼児～高校>

中村陽歩(年中) 関口美夢(年長) 乙部愛菜 加藤陽太 小石妃奈乃 下島陸叶
竹内諒(以上小3) 加藤春花(小6) 竹内菜永(中1) 川崎木乃葉(中3)
北澤里茶(高3)

<中野教室・大学>青柳 響子(大東文化3) 下山 晴生(立教3)

<中野教室・生徒>

にいろあいり(小1) 小林こうよう(小2) 鈴木隼人(小3)
峯田彩世(小4) 網代汐里 鮫島世玲菜(以上小5) 池田萌華 大平知雅 中島
諒太(以上小6) 大平麗雅(中1)

以上、毛筆作品出品者数は32人です。うち、児童・生徒の中でも半切に漢詩全文を書いた人、八つ切りあるいは半紙に教育漢字を1～3文字書いた作品があります。

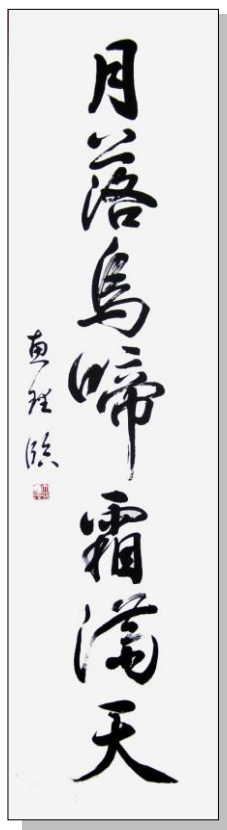
また、硬筆で書いた作品、豆色紙作品数枚あります。スペースの許す限り掲示、一部貼りかえることがあります。

紙の大きさ

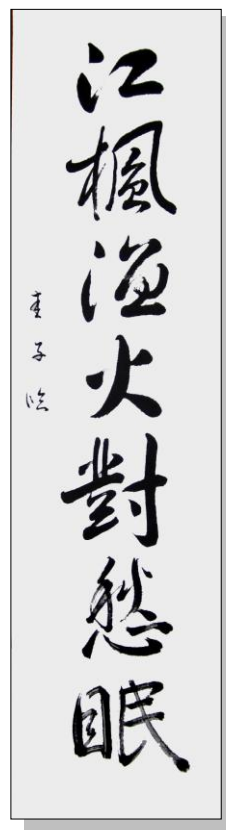
書写書道用紙(画仙紙)の大きさは、全紙(ぜんし)を基本としています。中国で歴史的に定着した大きさといえるもので、この全紙をいくつに切り分けていくかで、半切(その半分)、八つ切り(やつぎり、半切の4分の1つまり全紙の8分の1)と呼ばれます。これと別に、わが国の単位として半紙があり、大きさは幅25センチ、高さ35センチ内外。学校でよく使われるので、わら半紙と共に多くの人になじみ深い紙

講 師 習 作 集

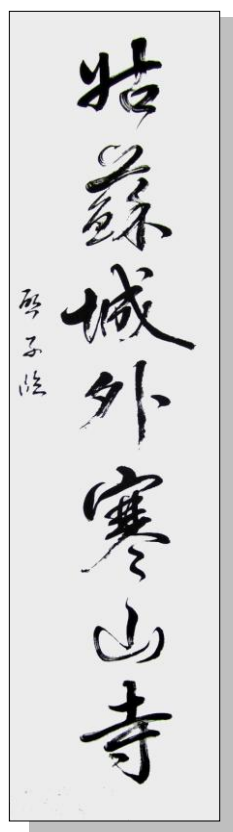
大平 恵理



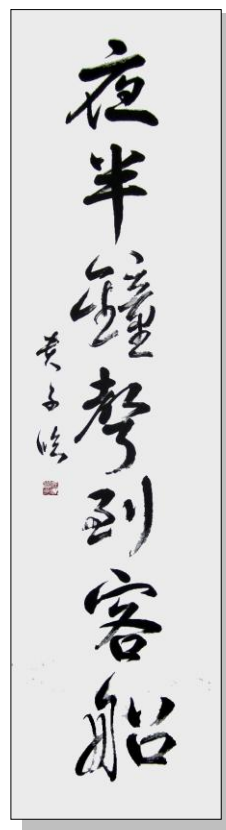
池田圭子



渡邊啓子



佐藤貴子



第1回漢詩「楓橋夜泊」臨書展実施要項

多摩川上流、青梅市沢井の鵜の瀬溪谷に建つ日本寒山寺の漢詩「楓橋夜泊」を碑文のまま臨書、あるいはその数語を楷書で書く大会を開催します。碑文は、中国江蘇省蘇州市の寒山寺にあるものと同じです。臨書は書を学ぶ人の基本。その上で、教育漢字で育つ小学生に向けて数文字を書文協会長・大平恵理が楷書で揮毫します。書の学びの弾みとして、また、同文の隣国、中国への理解を深めるきっかけになれば幸いです。

主催	後援	一般社団法人日本書字文化協会 青梅市(東京)日本中国友好協会 中国書法学院 (中国国立南京芸術学院大学院日本校) 蘇州・寒山寺 中国国立南京芸術学院 蘇州呉昌碩研究会
作品募集期間		平成27年3月1日～3月31日
応募資格		全部門とも年齢不問 毛筆のみ
部門		臨書の部 用紙は半切ないし八つ切り ・全 漢詩全文 ・部分 起承転結4句のうち1句 ホームページにて拓本発表、希望者には拓本縮小版を送付 楷書筆写の部 用紙は半紙ないし八つ切り 1字:月 満 天 漁 火 城 外から 2字:漁火 3字:寒山寺 ホームページに参考手本(大平恵理揮毫)。希望者には送付
課題		詩碑の漢文は唐代の詩人・張継(ちょうけい)の「楓橋(ふうきょう)夜泊(やはく)」、寒山寺碑文の書家は清末の愈越(ゆえつ)。 「楓橋夜泊」 碑文の字体は変わります 月 落 烏 啼 霜 滿 天 江 楓 漁 火 對 愁 眠 姑 蘇 城 外 寒 山 寺 夜 半 鐘 声 到 客 船
出品料		臨書の部は1点1000円(幼児・小中学生は700円) 楷書筆写の部は1点700円(幼児・小中学生は500円)
5点以上一括出品		いずれも出品料の0・8掛けとなります。審査結果、賞品などは一括出品代表者に送られます
出品の仕方		①作品に出品票(名前、所属=団体名、学校名)をクリップでとめて出す ②全体の出品者名、総点数を記した出品総括表を添えてください。以上の用紙についてはホームページからダウンロードできるようにします。 あるいは書文協にご請求ください。応募作品は返却いたしません。
審査賞		書文協中央審査委員会 大賞(臨書の部から)、中央審査委員会賞 青梅市日本中国友好協会 長賞 日本書字文化協会会長賞 ほか
審査結果		書文協機関紙5月号、ホームページで発表 園・学校在籍者の上位入賞者は園・学校にお知らせし顕彰をお願いします
展示		優秀作品について公開展示予定

中央審査委員会メンバー（平成26年9月1日現在）

顧問



井上 輝夫（孤城）

元全日本中学校長会会長
全日本書写書道教育研究
会（全書研）会長



城所 湖舟

横浜国立大学名誉教授

蓮池 守一



元全国連合小学校長会
会長

審査委員長



小森 茂

青山学院大学教授
元文部科学省教科調査官

審査副委員長



加藤 東陽

東京学芸大学名誉教授
全書研副会長
元文部科学省教科調査官

委員



青山 浩之

横浜国立大学准教授



磯野 光象

文教大学講師



加藤 泰弘

東京学芸大学教授
文部科学省教科調査官



柴田 五郎

元東京都小学校
書写研究会会長



辻 眞智子

聖心女子大学講師
文教大学講師



長野 秀章

東京学芸大学教授
全書研理事長
元文部科学省教科調査官



西村 佐二

聖徳大学大学院教授
元全国連合小学校長会
会長



宮澤 正明

山梨大学教授
全国大学書写書道教育学会
理事長

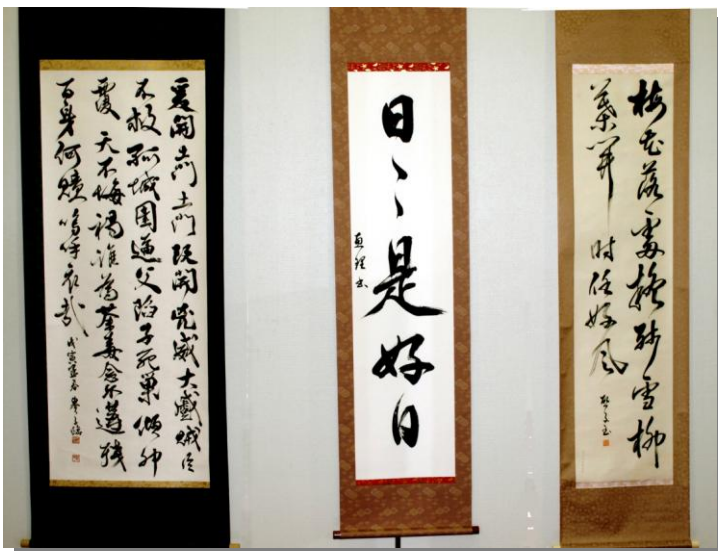
書文協と青梅

日本寒山寺は書文協の記念地

書文協の中心的指導者は、いずれも書写書道の修練を青梅市で積みました。大平恵理は旧・全国団体のトップを務め、20年近くにわたり、同団体の手本揮毫を一身に担ってまいりました。同期の池田圭子ほか指導者は大平を支え、書写書道の発展に全力を尽くしてまいりましたが、平成22年2月、公共的な組織運営を目指して青梅を離れ、東京・中野に本拠を置き、一般社団法人を設立いたしました。書の出発点が青梅にあったことを全員が深く心に刻んでおり、日本寒山寺の楓橋夜泊碑文も拓本取り、臨書の手本として利用させていただいた記念の場所です。

青梅が育てた書写書道指導者

大平恵理・渡邊啓子とその仲間展



こうしたことから、平成25年1月5日～10日まで、JR 青梅線河辺駅前の青梅中央図書館展示室で、標記仲間展を開催しました。展示会は、大平、渡邊が小学生低学年時代からの作品も掲げ、書の道を歩んできた足取りを示すユニークな内容となっており、来展者は1000人に迫りました。(写真は展覧会入口に飾られた講師らの作品。右から渡邊、大平、佐藤の作品。)

青梅教室の開講

この仲間展は、写書道専修学院青梅教室が本格開講することを記念して開かれたものです。教室は、青梅線河辺駅前西友ストア裏にあるサンライズイトウビルの3階＝写真。渡邊啓子が教室長として小学生低学年からシニアまでを懇切に教えています。「誰でも必ずうまくなる。一芸としての書写書道」がモットーです。

